

# 人権だより 2022.11

大洲高校人権委員会



11月18日実施のホームルーム活動では、1年生は「身の周りの差別」、2年生は「水平社宣言」を中心に学び、3年生は「結婚差別の解消」をテーマに学習しました。人権委員の感想の一部を紹介します。



**1-1** 差別をなくすためには私たちが誤った知識で、周りに流されてはならないと感じた。



**1-2** 人間の一部だけ見て判断することがないようにしたい。みんな積極的に感想を言ってくれてよかった。



**1-3** ハンセン病の差別について班で意見を共有し発表した。人権について話し合う時間を大切にしていきたい。



**1-4** ありのままに生きられるよう、知識を深め、お互いを尊重し合うなど、自分のできることをしていきたい。



**1-5** 誰もが自由に自己を表現できる社会になる…今日からでも意識を変えて生活していこうと思った。



**2-1** これからも人権問題に関心を持ち、「人の世に熟あれ…」この言葉を胸に生活していきたい。



**2-2** 今なお残る差別は、私たちの心が生んでいるものだと思う。差別と闘ってきた人の意志を受け継ぎ、伝えていくべきだと思った。



**2-3** まだ差別が起こっていることを知り、もっと深く考える時間が欲しいと思った。



**2-4** 根強く残っている差別や、新しく気付いた差別もあるので、間違っていることをしっかり伝えられる人になりたい。



**2-5** 自分たちに何ができるか情報を集め、偏見を持たないように過去から学び、努力していきたいと強く思った。



**3-1** 自分や周りの人が結婚差別にあったら、何度も説得を重ね、根気強く対応していきたい。



**3-2** 誤った知識を持っている人に対して説得するだけの知識を持ち、間違いを正せる人になりたい。



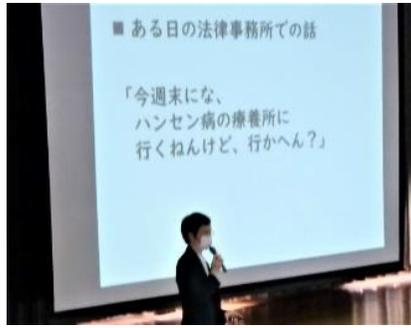
**3-3** 社会に出て結婚を考えるようになった時、差別をしない、させない、見過ごさないの精神でいきたい。



**3-4** 結婚差別に関わる立場になったとき、何ができるのか考え、参加できる活動に積極的に参加していきたい。



大洲高校人権委員会



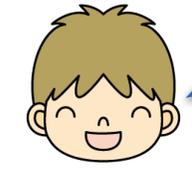
# 人権・同和教育講演会

11月4日は人権・同和教育講演会がありました。宇和島市から西尾祥之さんにお越しいただき、「私にできること～ハンセン病国家賠償訴訟に関わって～」と題して講演をいただきました。感想の一部を読んで振り返ってください。

- 差別をしないだけでなく「なくす」ということを思って、逃げずに考え行動したい。
- ▶ 自分が自分らしくいる事のできる居場所をつくり、他人が自分らしくいる居場所を奪うことのないようにしたい。
- 差別をなくし、居場所を作るためには、私たちの意識を変えることが大切だ。
- ◆ 行動を起こすのは今でなくても、チャンスがある時でいいんだと思った。
- 人権問題に対する考え方が「難しそう」から「誰にだってできる」というふうになりました。
- (ハンセン病)なぜ悲しいと思うのか、私たちに何ができるかなど、次の「考え」につなげることが大切で、自分の中の全力を失敗してもやることが大切なのだ分かりました。
- △ そばにいてくれる人の役に立ちたいと思うのは私も同じで、なおかつ安心感があれば、そこが私の居場所なんだといえるのだと思います。
- ◇ 「気付くか、気付かないか」は大きなポイントになると思う。……それが未来の社会をどうつくり上げていくのかにつながってくるのでしょう。
- 人のつながり、一人一人の居場所、人権の問題にかかわることを普段の生活から意識していきたい。
- ▲ 「居場所を作るのも無くすのも私たち」。……考えることから逃げ出さずに、間違いを間違いと言える人になりたい。
- 自分にも関係あることと受け止め、自分には何ができるか考えながら過ごしていきたい。
- 人権問題についてのかかわり方がわかりました。出会う（知る）→気付く、考える→行動です。
- ▽ 人権は、その人の生きていく道の障壁をなくすものとなるんだなと思った。

## コラム

# 「おれたちはゾウやね」



子どもの頃、ころんだときに「痛いね」「かわいそうだね」「だいじょうぶだよ」とよく言ってもらった。



うれしいときには「うれしいね」と言われたよ。



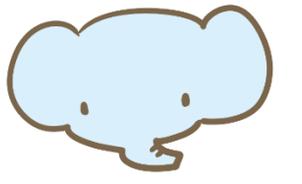
気持ちに寄り添ってくれてたんだ。



そう。それって優しいよね。



おれたちはゾウやね



そうやね。



優しいとは、憂いている隣に寄り添うように立って、ともに憂えることと解釈するとどうでしょう。憂いの横に人がいて優しいですね。